

中国地方知事会・経済界合同会議 議事録（修正稿）

平成 20 年 5 月 28 日（水）12:55～14:05

ホテル穴道湖 2 階「高砂 1・2」

（開会挨拶）

【司会】 中国地方知事会・経済界合同会議を開催いたします。私は、議長選出までの間、司会を務めさせていただきます中国経済連合会常務理事の柘植と申します。よろしくお願いいたします。

では、開会に当たりまして、経済界、中国地方知事会、そして開催県を代表いたしましてお三方からごあいさつをいただきたいと思います。

最初に、経済界を代表いたしまして、福田中国経済連合会会長よりごあいさつをお願いいたします。

【福田会長】 皆さん、こんにちは。中国経済連合会の福田でございます。経済界を代表いたしまして一言ごあいさつ申し上げます。

本日は、知事並びに経済界の皆様方には大変ご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。

今回の会議につきましては、皆様ご案内のとおり、この秋に正式な第 1 回開催を予定しております「中国地域発展推進会議」のいわゆる準備的な位置づけでございます。とは申しましても、中国地域 5 県の行政と経済界のトップが一堂に会しましてディスカッションするという、当地域にとりましてもまさに画期的なことであり、大いに期待しているところでございます。

さて、こうした官と民が対等な立場で議論する会議の必要性につきましては、以前、設立趣意書の中でお示ししましたが、要は、東京一極集中などによる地域間格差の拡大、あるいは人口減少によりますところの地域が疲弊しているという事実、そしてグローバル化による地域間競争の激化に対し、地域の官民が一体となり、広域的に対応していかなければならないということであります。

昨年 11 月、中国地方知事会におきまして、ここにご出席いただいております経済界の方々のご賛同のもと、「中国地域発展推進会議」の設立を提案させていただきました。知事の皆様からは、会議そのものの趣旨についてはご賛同いただけたものと思っておりますが、とりわけ溝口知事より、「行政の側に対し経済界側から注文があるだろうし、逆に行政の側も経済界側に対し応援を求めなければならないことがある。この会議が、行政と経済界がタイアップして、できる活動をやっていく、そういう場になればいいのではないか」という内容のご発言をいただきましたが、まさに私どもの思いがこの言葉に凝縮されているのではないかと考えております。

この場におられます知事、経済界の皆様にとりまして、中国地域を発展させていきたい、元気にしていきたいとの思いは共通だと思っております。本日の会議を含め、これからの会議を実のあるものにするために、我々経済界は知事の皆様とともに一致団結して取り組んでいく所存でございますので、知事の皆様にはご理解をいただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

簡単ではございますが、私のあいさつとさせていただきます。どうもありがとうございます。

【司会】 ありがとうございます。続きまして、中国地方知事会を代表いたしまして、会長の

藤田広島県知事、ごあいさつをよろしくお願いいたします。

【藤田知事】 本日、福田中経連会長をはじめ、中国5県の経済界のトップの方々と5県の知事が一堂に会しまして、昨年秋にご提案のございました「中国地域発展推進会議」の設立に向けての協議ができますことを改めて感謝を申し上げる次第でございます。

申し上げるまでもなく、我が国が急速に少子高齢化や人口減少社会を迎える中で、経済活動のグローバル化はとどまることなく進んでおり、地域間競争は、国内のみならず、海外の地域まで、今後一層激化をしております。

こうした中、我が国の、国、地方ともに累積した巨額の財政赤字を正常化し、地球環境問題などのグローバルな課題と地域住民の福祉や地域経済の発展についてバランスよく対応していくためには、これまでの中央集権型社会から、真の分権型社会へと早期に移行する以外にないと考えております。

幸いにいたしまして、我が中国地方は、中国大陸、朝鮮半島、極東ロシアなど、さらには東アジアに近接している地理的優位性や、オンリーワン、ナンバーワン企業が多数立地するなど、物づくり産業を中心とした幅広い産業集積とともに、世界に誇る観光資源や豊かな自然環境を有しておりますことから、この分権改革が追い風となって地域が生き生きと発展していく素地は十分にあると考えております。

その一方で、全国平均よりも急速に進む少子高齢化や、総合的な対応が求められております中山間対策、さらには遅れている広域道路網の整備などのほか、産業界のご協力もいただきながら中国地方全体で取り組まなければならない多くの課題も抱えております。

本日は、「中国地域発展推進会議」の設立に向けての準備会ということでございますが、せっかくの機会でございますので、どうか皆様には、この中国地方が今後とも豊かで暮らしやすく、競争力の高い地域として成長を続けていくために、活発な意見交換を行っていただきまして、本日の会議が有意義なものとなりますよう祈念いたしまして、ごあいさつとさせていただきます。どうかよろしくお願い申し上げます。

【司会】 ありがとうございます。石井知事が到着になりました。

最後になりましたが、開催県の溝口島根県知事、よろしくお願いいたします。

【溝口知事】 ご指名でございますので、一言ごあいさつを申し上げます。

中国地方知事会と経済界の合同会議の実質第1回目と申しますか、準備会合でございますが、この島根、松江の地で開かれ、皆様、遠路ここまでおいでいただきまして、まことにありがとうございます。感謝申し上げます。感謝申し上げます。

私も知事になって、まだ皆様よりも新米でございますが、感じますことは、内外ともに大きな変化が起こっているということでございます。昔は私の郷里から、益田でございますが、松江に来るのにも大旅行をするようなことございましたし、山陽側の広島に行くのも大旅行のような時代であったわけでございますが、知事になって各地を回り、あるいは広島に行き、岡山に行きということをやっていると、非常に短くなったなあという感じがするわけでございます。皆様も、遠路と申しましたが、多分3時間から4時間ぐらいの間でそれぞれの県都からこちらに来られるような時代になったのではないかと思います。これがさらに縮もうとしているわけでございます。そういう意味で、この地域の実情も大きく変わるわけでございます。

それからもう1つは、やはり日本を取り巻く環境でございます。昔は極東ロシアがこのように

発展するなどということはあまり考えなかったわけですが、発展をし始める。あるいは朝鮮半島もそうですし、中国もそうです。そういう意味で、我々を取り巻く環境、国際的な物流も変わろうとしているわけですが。

そういう意味におきまして、中国5県がこういう新しい情勢に対応しまして、官民協働してこの変化に対応しようというのがこの合同会議の試みの発端ではないかと思うわけですが。

こういう場を通じまして、民間の経済界の方々からは、官への注文、私どもとしては皆様方からのお知恵の拝借、あるいは応援をいただくということでございます。この会がますます活発になるということは、中国地方がますます活発になるということと並行しているのではないかと思いますので、そういうことを目標といたしまして、皆様とともに頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。簡単でございますが、開催県の知事としてのあいさつでございます。よろしくお願いいたします。

【司会】 ありがとうございます。

さて、本日の会議の議事進行につきましては、これまでの経緯もございまして、中国経済連合会の福田会長が務めることでよろしゅうございましょうか。

(「異議なし」の声あり)

【司会】 ありがとうございます。それでは、これから先の議事進行は福田会長にお願いしたいと思えます。福田会長、議長席にお移りください。

(議事1. 中国地域発展推進会議の設立について)

【福田会長】 それでは会議の進行を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。14時終了を厳守したいと思いますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

では、議事の1でございますが、中国地域発展推進会議設立について、中国経済連合会事務局から説明をお願いします。

【事務局】 まず、設立趣意につきましてはお手元に配布しております資料1の最後のパラグラフに記してありますとおりでございますが、中国地域の行政と経済界のトップが一堂に会し、官民一体となって中国地域の特色を生かした地域の発展に取り組むことであります。

次に、会議の運営等について、配布しております資料2の規約(案)により簡単にご説明させていただきます。

この会の目的は、第2条に記しておりますように、地域経済の活性化に関する課題や施策について協議し、実践的に取り組むことであります。

次に、この会議の活動でございますが、第3条に書いてありますような産業振興に関する等の事項を行い、年2回開催することとします。

続きまして、組織構成であります。第4条のとおり、中国地方各県の知事の皆様及び経済界からは、中国経済連合会会長、並びに各県ごとに経済団体のトップから1名ということにしております。

第6条で、会長及び副会長は中国地方知事会会長と中国経済連合会会長をもってあて、総会で選任することとします。

なお、会長、副会長と役員任期は第8条により2年としまして、再任を妨げないこととします。

以上でございます。

【福田会長】 ありがとうございます。規約第6条に関してでございますが、知事会と経済界のどちらから会長を選出するかにつきましては、規約事項ではなく、運用事項でございます。また、本日は合同会議であり、正式な発展推進会議ではありませんが、重要なことと思いますので、テーマとさせていただきたいと思います。

昨年11月の知事会で、会長選出は知事会と経済界から交互に選出を行うということを提案させていただきました以降、初代会長に、私、福田を推す声がございまして、発展推進会議の速やかな設立のためにも、初代は私、福田が務めさせていただこうと思っております。

また、本発展推進会議の趣旨に則りまして、イコールパートナー、官民対等の立場で行うべきであることから、経済界と知事会から2年ごと、交互に会長に就くということにいたしたいと思いますが、いかがでございましょうか。

以上、議題1につきまして、ご意見等があれば、よろしく願いいたします。

(「異議ありません」の声あり)

【福田会長】 よろしゅうございましょうか。どうもありがとうございました。

それでは、秋に発展推進会議を設立した後は、私が初代会長を務め、副会長は、規約に基づき、藤田広島県知事をお願いしたいと存じます。

また、監事につきましては、知事会から二井山口県知事、経済界から林山口県商工会議所連合会会頭をお願いしたいと存じます。どうぞよろしく願いいたします。

なお、先ほどご指名いただきました会長につきましては、経済界、知事会が2年ごとに交互に就任するということにさせていただきます。どうもありがとうございました。

(議題2．今後議論する議題の提案について)

【福田会長】 それでは、議題2に参ります。今後議論する議題の提案についてでございます。

この秋に設立される発展推進会議において議論すべきテーマにつきまして、時間の許す限り意見交換をしていきたいと思っております。つきましては、経済界の方から、中国地域の官民が協力して検討すべきテーマとして考えている課題につきまして提起いたしますので、それについて、知事の皆さんを交えディスカッションしていくという形で進めていきたいと存じます。

さて、今回の合同会議に当たりまして、経済界では事前に各委員から課題をいただいております。広域観光と国際物流機能に関する意見が多かったので、時間の都合もございまして、まずこの2つから意見交換を始めたいと存じます。

それでは、経済界から、山口県商工会議所連合会、林会頭より、広域観光についてお願いしたいと思っております。なお、時間の都合上、5分以内でお願いいたします。

【林会頭】 林でございます。ご指名でございますので意見を発表させていただきたいと思っております。

中国地域における広域観光を一層推進するため、5県の行政と経済界で力を合わせて一体的に取り組むよう、さらなる連携を提案いたしたいと思っております。

中国地域の広域観光は、2県あるいは3県が連携して取り組んでいるものや、さらには中国地域観光推進協議会や、JRのDISCOVER WEST連絡協議会など、5県全体で取り組んでいるものもあります。

こうした観光の取り組みによりまして、中国地方の入り込み観光客数は、国内観光客及び外国人とも増加しております。統計的に見ますと、中国地域への国内観光客数は、平成13年を100とすると、平成18年は107.6に増加しております。また、外国人入国者数も、平成14年を100といたしますと、平成18年は約5割増と、ずいぶん増えております。しかしながら、全国に占める割合で見ますと、中国地域における観光客数、宿泊者数は、人口や経済規模に比べ低いのではないかと考えます。

中国地域の全国シェアは、一般的な経済規模、人口が6%、GDP5.7%、製造品出荷額7.9%や、観光資源9%などと比較すると、入り込み観光客数4%、これは平成17年のものであります。それから、総宿泊者数5%、これは平成19年1月から19年9月までのものです。外国人入国者数2%、これは平成18年のものであります。外国人宿泊者数1.6%、これは平成19年1月から平成19年9月のものであります。となっており、とりわけ外国からの観光客数の割合が低いのが実態であります。

この外国からの観光誘致を伸ばすために、各県が別々に取り組むよりも、一緒になって力を合わせてやるほうが効果的であり、この秋からの中国地域発展推進会議においても、ぜひ広域観光をテーマとして取り上げるのがよいのではないかと考えております。

当地域に近い東アジアの最近の状況を見ますと、経済発展が著しく、これに伴いまして、海外旅行をする人が増加しております。さらに、今度も一層の成長が期待されているわけでありまして、当面、中国、台湾、韓国等をターゲットにして、これまで以上に積極的な観光誘致の 프로모ーションを実施することが望ましいと考えております。

私は下関でございますが、下関におきましては、下関と釜山を結ぶ定期航路があります。これを利用して年間約9万人の韓国人旅行者が訪れております。しかしながら、韓国人旅行者の多くは温泉やゴルフが目的であり、多くが九州方面に流れているのが現状であります。中国地方にもゴルフ場はたくさんあります。また、石見銀山や宮島、さらには鳥取砂丘、倉敷美観地区等、いろいろ立派な観光資源がありますから、こういったものをしっかりPRしていただきまして、東アジアからの訪問客をしっかりと増やすよう、力を合わせて努力をしていただいたらと、いう提案をいたしたいと思っております。

以上で提案を終わります。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは次に、岡山県商工会議所連合会の岡崎会長にも、広域観光につきましてご提案をお願いします。

【岡崎会長】 岡山の岡崎でございます。私も中国地域観光推進協議の副会長を仰せつかっている立場からも、広域観光をこの第1回の発展推進会議の議題とすることに賛成でございます。

私どもの岡山県の観光連盟の会長は石井知事でございますが、私も冒頭のとおり副会長を務めさせていただいておりますことになりましたが、人口減の社会に入ってきて、これから人口が減少する中で、地域の振興を図ることから、観光に期待される地域は非常にたくさんございます。交流人口を増やして、それを地域振興に役立てようということでございますが、現在の観光は、皆さんご存じのとおり、1地域だとか、1つのポイントだけではなかなか成り立たない時代になって、広域観光というのは当然のこととなっております。そういったことから、広域観光に向けてみんなで力を合わせるべきだと考えております。

平成19年版の観光白書が出ておりますが、その中で、地方県の中から、青森県と群馬県、大分

県、それから岡山県の4県を選んで、都市圏ではないということですね、大都市圏から近いところと遠いところ、産業規模や人口で大体中位のところを選んだということですが、そういった4県を選んでの経済効果を分析されておりまして、それを見ますと、やはり観光は、産業への波及効果でありますとか、地域への経済・雇用効果が大きいことがわかります。

岡山県をとってみますと、この観光白書の中に載っているわけですが、岡山県では「夢づくりプラン」というのを作っております。その中で目指すべき目標地点を掲げているわけですが、それが平成23年、目標としては2,710万人の観光客、これは平成16年に比べまして7%増という計画でございます。それから、消費額は1,530億円、これは16年に比べまして8.9%増という目標でございますが、これが達成されるということになりますと、その波及効果は8.9%、167億増にもなる。また、雇用でいいますと、1,550人の創出効果があると述べられております。こういった非常に大きな経済効果があるということでございます。

そういったことから、ほかのブロックとの連携を図る。中国地方だけというわけではなく、近隣の他のブロックとの連携を深めた国内観光客の誘致でありますとか、インバウンドと、さらにはアウトバウンドまで拡大した広い視野での議論を一体的に行うことは大変有意なことだと思います。

また、中国地域に対する観光イメージでございますが、残念ながらこれも非常に希薄で、中国地域の広域観光の課題を整理して、それをこの会議で検討するだけでも意義のあることだと思います。

少し古いのですが、平成12年に中国地域観光推進協議会が設立されましたが、その設立の際に、中経連で中国地域についてのアンケート調査を実施しております。これを見ますと、中国地域で思いつくイメージを聞いておりますが、「イメージがない」というのが1位でございます。これは28.8%、残念なことに。2番目が自然関連、海でありますとか、山でありますとか、そういう自然環境。3番目に歴史関連のものが出てくるということでございます。

また、中国地域で思いつく特産品を聞いておりますが、これも1位は「思いつかない」、まことに残念であります。2位がもみじ饅頭、3位が牡蠣、4位が梨、5位が桃、こういう順序でございます。

それから、中国地域で思いつく市町村名・観光地を挙げよという問いでは、広島県のものが約31%、岡山県が17%、鳥取県16.9%、山口県12.9%、島根県7.7%、ほかに「思い浮かばない」が11%あるのです。

これを見ますと、中国地方に対するイメージが非常に希薄といいたいまいしょうか、残念ながらそういうのが実態であるということがわかります。

こういった他県、他ブロックからの意識を見てみますと、行ってみたいと思わせるような中国地域の観光イメージづくりというものが非常に大事なのではなからうかと思えます。そういったことから、中国地域の一体的な情報発信機能の充実、例えば一体的なポータルサイトを設けるとか、あるいは大都市圏や東アジアに向けての観光プロモーションなどを行う。それから中国地域一体としての観光戦略、また戦術、そういったものを共有化して誘客を図っていくことが大事ではなからうかと思うわけです。

それからさらに、最近といいますか、これから大問題になってきます中山間地域の問題、これも観光資源を活用した地域振興を図っていくことも大いに考えられることでありまして、これを

使って、山陽、山陰のお互いの流動人口を増やすとか、あるいはそういったところにも定住を促進する、観光での定住、ずっと住まなくても、ある期間、住んでいただくようになると考えられるわけで、そういった新型観光による中山間地域の振興でありますとか、観光客の回遊性の促進手段としての道路の整備、また二次交通としてのインフラ整備など、広域観光という視点から議論することが重要と考えます。

観光という面では以上です。観光と関係ないわけではありませんが、中国地域として、山陰自動車道でありますとか、中国横断自動車道の整備ということをまず訴えているわけでありまして、こういったものも官民一体となって中央へ要望活動していくことも大いに大事なことだと思えます。これは観光にもつながってくるわけでありまして、以上でございます。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは、鳥取県経営者協会、安藤会長さん、どうぞよろしくお願ひいたします。安藤会長には、国際物流機能の強化につきましてもご発言を賜りたいと考えております。どうぞよろしくお願ひいたします。

【安藤会長】 鳥取県経営者協会の安藤でございます。よろしくお願ひいたします。

まず、中国地域の広域観光戦略について申し上げます。今、中国地方の観光についてのご発言がありました、全くそのとおりだろうと思えます。観光資源としては、特に歴史、文化の非常に貴重な観光資源があります。さらに自然という面では、農業も含めまして、非常にいい山、大変貴重な観光資源がございます。それと、産業観光といいますが、最近、奥大山にサントリーさんがミネラルウォーターの工場を作られて、それが今後、工場見学を1つのルートにさせていただけるようになりまして、産業観光というものも新しいものなのかなと思っております。そんなことで、観光資源としては、韓国、中国の皆さんのお好きな雪もありますし、ゴルフ場もありますし、他の地域に負けないような観光資源なのですが、今お話がありましたように、いかにも日本の中ではマイナーな地域になっております。昨日も鳥取県の皆さんとお話をしていたのですが、情報発信力が弱いというのがまずスタートだろうと思えます。鳥根県と鳥取県、どちらが大阪に近いか、正確に言えるよその県の人は少のうございますので、やはり鳥取県を言わんといかんというのが昨日の若い人の多かった会議の結論になっております。そういうことで、これだけ貴重な観光資源を持っておりますので、まず、中国5県一体となって情報発信をしていくということがスタートかなと思えます。

その対象として、日本の国内もありますし、それから、北東アジア、東アジア、さらにはロシアというようなことで、今後、平井知事のご努力で貨客船のルートが来春には就航するようでございまして、ぜひこれを内外にPRして観光客を誘致したい。特に全国シェアが低いというのは非常に情けないところでございまして、一体となって、これは情報発信という点では知恵を出せばスタートできるわけでございまして、ぜひ中国地域発展推進会議でよろしくお願ひしたいと思えます。

次に、国際物流機能の強化について一言申し上げておきたいと思えます。これも申すまでもないのですが、今後、東アジアであるとか、あるいは北東アジアの発展というのは我々にとって非常に期待されるところでございまして、地政学的に見ますと、もちろん中国地域の日本海側がこういう地域に一番近いわけでございまして、福田会長の得意な逆さの地図でも新潟だとか富山とわりあい似た距離ではあるのですが、この辺は地政学的な有利を生かして、物流の面でも環日本海の窓口にならないといけない。それが中国地方のさらなる発展の大きなインフラといいますが、

そういうことになってくるのではないかと思います。

現在、新潟、富山には境港港も若干というか、だいぶ遅れをとっておりますので、これにとりあえず追いつくということから始めたい。そのために、来春に開港を予定されますフェリーの活用によりまして、人も呼び込む、貨物も増やしていくということをぜひお願いしたい。これは当然のことながら、鳥取県だけでできることではないので、中国5県の皆さんのバックアップ、さらには関西圏まで広げたところでの活用ということをお願いして、ぜひ中国地方を超えて日本経済の発展のためにやってもらいたいと思っておりますので、ご支援を賜りたいと思います。

要は山陰は非常に落ち込んでおります。現在の山陰地域の活性化なくして中国地方の自立であるとか経済の発展というのはないわけでございますので、せっかくの地政学的には大変有意なものでございます。これは何物にも勝ることでございますので、ぜひ平井知事のご努力によって開港されますフェリーの航路を第一歩として、環日本海構想の入り口、玄関口にしていただいて、活性化を図ってまいりたいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

【福田会長】 どうもありがとうございました。続きますが、広域観光で追加する点がございましたら、島根経済同友会、宮脇代表幹事から、1分でお願ひします。

【宮脇代表幹事】 それこそどこも観光、観光をやっているわけですが、とりあえず観光はイントロとして入りやすいけれどもつかみどころがない。一般の市民は本当にその効果が捕捉できないという弱みがあります。日本海側で人口集積が一番大きいのは新潟で、110万です。金沢が大体90万、富山が70万。ずっとないのですが、大山・中海・宍道湖地区で60万。一番小さいけれど、さっき皆さんおっしゃったように観光の資源が豊かです。たまたまここは両県をまたいでいるために4年かかったのですが、毎年、両県の知事をお招きして、それと県の関連の境港だとか出雲までの首長さん、市長さんを集めて、必ず国交省から道路局長さんをゲストに招きまして、やっと具体的なものができました。観光についてはいろんな組織があるので、また屋上屋をやるのですかという話もありますが、何かきちっと成果物を出していくうちに組織になっていくものなので、これもその1つになるのではないかと。そんな中で、市民に頼るばかりでは市民もうんざりしますので、何か具体的な成果物を出そうと。

今日は地図が1部しかありませんので、お渡ししますが、これは両県をまたいだ山陰の地図です。今まで鳥取県の地図には出雲大社がないんですね。島根県は大山が入っていない。単位が経済圏域でできているわけで、決して行政圏域でできているわけではないので、この地区を活性化するためには、この地図を作って、ポータルサイトを全部国交省の自動車ナビとリンクを取るような形にしました。裏にいろんな各街道の桜の名所がある。これはITの使い方の1つなのですが、ここにジップコードがあります。これは携帯電話を接写モードにして写しますと、自動的にウェブにリンクしていくのです。その中で、いろんなところに、何とか式道路とかいっぱいあります。それは全部4桁の番号が入っています。携帯に、ウェブに4桁入れてしまうとリンクするわけです。当然、今度はそこにナビで誘導されるわけです。こういうものをうまく使い、これを広げながら、昨日、実は同友会でも議論しました。今日は山口の二井知事がおられますが、萩、長門、この辺をどういうふうにするかとか、そういう形で具体的な使えるようなものをやらなければならないのではないかと感じがしています。

大都市、大企業には、人、物、金、情報、技術という5つのリソースが、集積度が非常に高いです。では地方はないのか。あるのですが、偏在しているのです。それをリンクしていかないと

とても大都市には勝てない。

そこで一番ネックとなるのが、隣に行くのは腹が立つという精神ですから、バリアフリーというのは何が必要なのか。いろんな財界とか行政とか、そういうものを精神的にバリアフリー化していけないと。そういう意味で、今回、知事さんと財界とがバリアフリーをしながら何か地域の中でやっていければ、私は個人的に期待をして、また参加させていただけますことを喜んでおります。ぜひこういう会は、具体的な成果物を出すということを期待したいと思います。

最後に、ぜひ皆さんがおっしゃったとおりでフローを起こさなければならない。フローというのは流れですが、キャッシュもフローがないとただの紙切れですから。人間の体も血液がきちんと流れて、溜まるとうっ血して頭痛が起きるわけです。観光はまさにそうです。フローを作る。フローしたときに、観光というのは単なるサイトシーイングではなくて、安藤会長さんもおっしゃったように、観光産業化、物を作ったものを買ってもらうとか、そういうことをしていけないと。島根県もたしか2010年の県の観光直接予算が1,688億円ですか、付帯のいろんな係数を掛けますと3,100億ぐらい、ポスト公共事業になるわけです。観光は立派な産業の柱になるわけです。それを我々財界としては具体化する義務があるわけです。ぜひそういう、まさにイコールパートナーでなくて、もっと深い関係の中で、早く具体的なものをやらないと、地方は非常に厳しいと思います。以上です。

【福田会長】 ありがとうございます。広島商工会議所連合会の大田会頭、何かございましたら。

【大田会頭】 広島県では、今日は藤田知事がお越しになっていますが、一昨年、観光立県推進計画を策定されまして、今年の2月にはその具体的な基本計画を作られました。広島商工会議所では、そういう具体的な数値に向けて実現の努力をしようということで、主に観光を主体にした副会頭まで作りまして、今積極的に観光振興を行っております。結果としては、観光客数も、広島市で1千万人を超え、また宮島観光客数が300万をオーバーするなど、大きな成果を出しております。

今後ですが、やはりそれを大きな、近隣都市と一緒にした誘致が重要だと思っております、中国地域が一体となった取り組みを積極的にやっていく必要があると思います。

これは今後の会議で取り上げていただきたい要望なのですが、やはり観光モニュメントとか観光の看板の整備、こういうものもできれば中国地方でベースを共通なものにするとか、それはオリジナルなものを付け加えられてもいいと思いますが、そういう取り組み、あるいは5県全体をカバーしたパンフレットの作成、これもあるにはあるのですが、それぞれの県がやっておられますイベント等をまとめて、モデルコースのようなものを作っていき、そういうものを議論する必要があるのではないかと考えております。

それから、観光イベントの調整機能をもっとこの中に持たせるといいと思っています。それぞれいろいろ特性を持った観光振興をやっておられますが、そういうものを調整して、もっと大きなものにしていくことが重要であろうと思います。それはもちろん月別とか、季節別とか、いろいろそういうものもあわせて、各地でバラバラに開催しないで、そういうことをここで調整する。

それから、今年は山口県がきらら博以来、DESTINATIONキャンペーンを実施されますが、こういうものも5県が積極的に応援できるような体制づくり、これも重要なことではないかと考えております。

【福田会長】 ここまで広域観光と国際物流機能、2つの課題につきまして、経済界から意見を述べさせていただきます。本当に長い間、知事さんにはずっと我慢して聞いていただきましてありがとうございました。まだ議論するというわけではありませんが、道路整備の5県の官民合同での要望活動の提案もございました。

ここで、各知事様から、今までの提案に関するご意見、または関連する課題等についてご発言を賜ればと思います。広域観光、物流機能の2つについて、よろしく願いいたします。

【平井知事】 諸先輩を前にして失礼いたします。今、林会頭さん、大田会頭さん、岡崎会長さん、鳥根の宮脇代表幹事、安藤会長さんからお話をいただきましたが、私は全く賛成です。中国地方は、さっき岡崎会長さんがおっしゃっていましたが、やはりイメージがないというのが一番問題だと思います。四国だとか、九州、東北というのは、1つのパッケージとして旅行商品化していると思うのです。ところが中国地方の場合、どうもそういうことになっていない。このことを私たちはもう1度考えなければいけないのではないかと思います。決して回りづらいことはないと思うのです。東北でも1つのパッケージとして商品化されるわけですから、そのところの盛り込む仕掛けをぜひ民間の経済界の皆様と、それから行政とでタイアップしてやってはどうかと思います。

デスティネーションキャンペーンも協力して、山口県が今年盛り立ていくというのは1つの方策だと思いますが、本当はできれば5県共同でデスティネーションキャンペーンをいずれはやっていく体制を取るとかいうふうにしたほうがいいのではないかと思います。

それから、先ほどもお話がありましたが、ポータルサイトのように情報発信をまずやろうではないか。私はこれが一番近道だと思いますし、個人旅行へシフトしている現状からしますと効果的なように思います。そこに宮脇代表幹事がおっしゃったような地図情報をリンケージさせるような形にすれば、非常に使い勝手のいいものになるかもしれないと、そんなような期待をいたします。

それから、2点目として、国際物流でございますが、安藤会長からずいぶんプレッシャーをかけられまして、これが実現したらどうしようかなと思うぐらいであります。今、境港から朝鮮半島の東海岸の東海という町、さらにウラジオストックを結ぶ航路を開設しようと強気に働きかけをしております。現在、経済界の方と我々行政が一緒になりました訪口団まで、鳥取、鳥根両県から出ていっております、その実現を図りたいと考えております。

これに代表されるように、私は、中国地方の地図を考えていただければ、ちょうど日本列島がアジアに向けて手を差し伸べるような形態になっているということを重視すべきだと思うのです。これからの時代において、アジアに近いことが、経済力が成長しています韓国、中国、極東ロシア、先ほど藤田会長のお話もございましたが、そうしたところとの関係が近く結べるのが、私たちが日本経済をリードし、世界経済をリードし得る地政学的な位置なんだということだと思います。

ただ、欠けておりますのは、お互いの情報があまり流通していないということです。例えばどこかに素晴らしい生産拠点がある。そこに物を運ぶのに、アジア大陸から運ぶ、あるいはアメリカのほうから運ぶ、こういうものが組み合わさってこなければならぬ。ただし、それについて、港側との連絡体制ができるかという、必ずしもそういうものはできていません。ですから、せっかく5県の経済代表と私ども行政代表とが集まるのでしたら、何か常設のそうした情報交換が

できるようなスポットがあったほうがいいのかと思います。

正直に申し上げて、中国地方は、道路でまだまだ不十分なところがありますが、お互いに結ばれております。束になってかかっていくことで、私は、初めてその真価を発揮し得るところだと思いますので、実を上げる意味で、商談会機能をお互いに充実するとか、貿易などの経済戦略について定常的なスポットを設けるなど、そうしたことが必要ではないかと思います。

今後の進め方について、もう1点だけ申し上げますと、こうした定常的な研究テーマを作って勉強会をすることはもちろん大切だと思いますが、それと合わせて、例えば次回、秋でしたら、道路がおそらく佳境に入ってくると思いますし、分権なども秋になりますと予算編成時期が絡んで、非常に微妙なタイミングになってくると思います。経済界と行政と一致して出せるようなアピールやメッセージがあれば、これは臨機応変に、定常的テーマとは別に提出してはいかかかと考えます。以上です。

【福田会長】 ありがとうございます。それでは溝口知事、お願いします。

【溝口知事】 これまでの議論にありましたように、中国5県というのはなかなかまとまりがなかったのは、1つには中央の山脈で南北に行き来が難しかったとか、東西に難しかったということが影響しているわけですが、それがだいぶ整備をされてきて、これで中国5県で、行政、民間、経済界が集まるのがごく自然のようなことになりましたから、大きく大勢はそういう方向に向かっているのだらうと思います。その流れを少し押すようなことを我々で考えること、これはこの場の1つの大きな課題だらうと思います。方向を示す、それと同時に、実務的なところは、また我々の下のレベルと申しますか、各業界のレベルでも皆様を通じて話が伝わって、観光のグループの実務者会合があるとか、あるいはそういうところに各県の商工労働部、観光関係者が集まって議論する。やはりこの場は全体の大きな流れを指し示すといえますか、そういうところに大きな意義があるだらうと思います。そういう中で実務的な話も行われていく。中国5県で、海外、特に近隣の中国でありますとか、あるいは韓国等に対しましては、一緒にPRだとか説明会のようなことをやるというのも、中にはあってもいいのかもしれない。そういうことも考えていったらいいと思います。

それからもう1つは、5県だけではなかなか売りにくいところもあるわけですから、島根県、鳥取県が県境を超えた協力をやっていますが、そういうものも広島、島根とか、あるいは島根、山口、岡山とか、そういった近場の、より密度の濃い対応を積み重ねていく。両方やっていったらいいのではないかと思うわけでありませう。

手段としては、ポータルサイトを活用したり、地図を作ったり、いろいろあると思いますから、そういうものもさらに実務的に進めるように、我々のほうからそれぞれの下部の機関、組織なりに激励をしていく、督励をしていくということが大事ではないかと思います。

それから、物流につきましても、やはり外の世界が変わってきていて、環日本海、それもロシア、韓国、中国といったような北東アジアに対して、中国地方は一定の地理的ないい条件を持っていますから、これを活用する。そのためには、中国圏内で道路の整備がもう少し行われる。物流もそういうことを考えて行われるということを推し進めていったらいいかなと思っています。以上です。

【福田会長】 ありがとうございます。それでは、石井知事、よろしく願いいたします。

【石井知事】 議論が出尽くしているのだと思いますが、観光につきましては、全く異存はな

いし、我々、合同会議に一番ふさわしいテーマであって、具体的な成果をぜひ見出していきたいと思います。広島県さんの取り組みのように、私どもも観光立県宣言をこの秋に発するべく、今戦略会議を立ち上げたところでございます。観光振興を通じまして大いに地域の活性化をという願いでございますが、やはりその場合、1つの大きな戦略の柱は、先ほど来のお話の広域観光ということになろうかと思えます。首都圏等に対しましても、1つの県だけでPRするのではなくて、いくつかの県を広域観光でネットワークとして売り込んでいくというところからまた新たな旅行商品につながってくるものと思えます。

それから、この間、香港の飛行機の路線が就航いたしまして、そこで私もあちらに行って旅行者の方とお話をしてきたわけですが、香港の旅行者の方は、観光をより広域的に捉えておりまして、岡山県に来られて2、3の観光地、そしてまた先ほどのお話の例えば宮島へ行く、あるいは広島市へ行くといったような、非常に全国的に著名なところをトントン回っていく、あるいは最後には関空から帰っていくということで、神戸とか、京都とか、東アジアの場合は富裕層をターゲットとしているものですから、こういうルートになるようでございます。

そのためには、やはり中国地方の中でこれだけ素晴らしい観光スポットがあるということとをぜひ海外、特に東アジアの富裕層をターゲットにした旅行商品を作る旅行者の方にどんどん売り込んでいくためには具体的なものをぜひ作り上げていきたいと思えます。

先ほど来インターネットの活用といったことを含め、知恵を出せばできると思えますから、早速にでも関係者、行政側と経済界の皆さんと担当者が顔を合わせて具体的な、中国地方の地図に観光スポットを落とし、そういったものを作り上げて、そしてまたそれがITとの連携もできていると。こういったものが成果として打ち出せるようになればと思えます。

それから、物流のほうは、この間、私も物流大臣会合を岡山で開催させていただきまして、日中韓の担当大臣にお越しいただきましたので、物流こそこれからの地域の発展に非常に大切なことだと痛感しております。そのときのテーマは、シームレスな物流を目指してということで、国を超えた、国のさまざまな境界というものを超えたシームレスな、効率的な、また環境にやさしい物流ということがアウトプットとして声明が出たわけでございます。我々もそういう面では県境を超えて連携を是非していきたいと思えます。岡山側から言えば、例えば境港港がアジアとの玄関となって、そしてそこからまた高速道路が整備されて、我々、瀬戸内海側と、あるいは関西もそうでしょうけれども、そういう県境を超えたルートができるということ、これも大変魅力的だと思っております。そういうところに取り組み、連携を強めていくことができれば願っております。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは、藤田知事、よろしく願いいたします。

【藤田知事】 観光については、今までの皆様方のお話と逆行するのかもしれないのですが、私は、どなたかにお話を伺ったか読んだかで、どこかの企業が、香港でしたか、上海でしたか、そのの方々をご接待申し上げて、例えば片山津でゴルフをやって、能登半島の加賀屋に1泊10万円で泊めて、結果、それがいいねということになって、そこから来る皆さんは、日本に来たらそこに泊まるのがステータスになってしまった。皆さんがそこにお泊まりになるという話を聞いたことがあります。我々、中国地方でうまくできていないのは、そういう差別化と、重点的な売り込みなんだと思うのです。

例えば広島県の場合でしたら、加賀屋に匹敵するようなところがどこかあるかというところ、サービスの質の問題はありますが、宮島の紅葉谷の岩惣でありますとか、あるいは、戦後、米軍に接収されておりました尾道の西山別館でありますとか、こういうところは宿泊施設としては売れるのだらうと思います。例えば松江の皆美でしたか、ああいうところですか、各県そういうところが、歴代の天皇陛下がお泊まりになった、あるいは売れるところというのはあるのだと思います。どうやってそこへ引き込んで、せっかく日本に来たら何であそこに泊まってこなかったの、あそこを見てこなかったんですかというものを作ってしまふのが一番手っ取り早いのではないか。確かにウェブサイトで見たり、いろんなことをして調べておいでになります、もう一つ古い世代、今お金を持っている世代、持ち始めている世代はウェブサイトで作ってくるのだと思うのですが、その世代を取り込んで楽しんでいただくと思えば、やはりそういうことも必要なのではないか。

それを一番最初に開拓するためには、やはりお金がかかりますので、一番簡単なのは、経済界のどこかの企業が自分たちの開拓しようとしているマーケットからお客様を呼んで来て泊まらせていただくことが一番手っ取り早い。それが駄目であれば、例えば中国地方5県の観光振興協議会で共同して、我々がターゲットとしようとする地域のエージェントを呼んで、そういうところを実際に回してみせる。こういった取り組みも必要なのではないかという気がしています。細かいことはまた十分にご相談させていただければと思っています。

物流につきましては、これはインフラを伴うものでありますので、フォワードの皆さん、さらにはそこから先の空路、海路を伴うものでありますので、これはまたどこにどういう荷物があるか、あるいはその荷物がどこから入ってくるか。これを例えば神戸や関空経由ではなくて、中国地方である程度自分たちで流通させようということとを目標に、今後密接な意見交換をできたらと思います。以上です。

【福田会長】 どうもありがとうございました。それでは、二井知事、よろしく願いいたします。

【二井知事】 もう皆さんからご意見がございましたので特に申し上げることはありませんが、やはり今、中国地方全体が人口減少がかなり進んでおりますから、そういう意味では、先ほどから話がありますように、交流人口をいかに増やしていくのか。人の動きを大きく作っていくという対策が非常に重要であると思っております。

したがいまして、先ほど山口県がデスティネーションを今年やるというお話がありましたが、7月から9月の3カ月間、デスティネーションキャンペーンをやりますが、これも我々は外からお客を呼ぶというだけでなく、やはり県民を挙げて、県内でいろんな動きを作らないと、外から観光客が来ただけでは、意味がないというところちょっとオーバーかも知れませんが、やはり県内も知らないところがたくさんあるということで、みんなが動きを作ることが大変大事であると思っております。

山口県の観光客も、3分の2は中国地方と九州から来ておられるわけです。したがいまして、中国地方の中でいろいろな人の動きを作る。そのことが中国地方の県民の皆さんが、県外、中国地方外に向けていろんな形でPRをするという効果にもつながっていきますので、とにかくまとまって人の動きを作るという意味では、観光というのは1つの大きなテーマであると思っておりますので、ぜひこれを共通のテーマとしてやっていただければありがたいと思います。

特に国内はともかくとしても、国外に向けては山口県も全く知られておりませんし、中国地方全体としてもまだ非常に希薄な状態にありますから、特に海外に向けてはまとまってPRをしなければいけないのではないかと。

先ほど、林会長さんから話がありましたが、山口県は下関が海外からの玄関口になっているわけですが、ほとんどが九州のほうに行ってしまうということですから、大変もったいない形になっておりますので、中国地方の中で魅力的なものを作り上げていくということが大変重要であると思います。

それから、物流の関係ですが、今まではどうしても道路とか空港とかが注目されていましたが、やはりこれからは港の整備をいかに進めていくかということが極めて重要であると思います。今、地方分権ということが大きく言われておりますが、私は、港の関係は、国際空港があるように、港の機能というものはどうあるべきかということ国がもっと考えるべきではないかと思っておりますので、港にウエートをかけた形の物流というものもこれから真剣に考えていかなければいけない時期に来ているというか、もう遅れているのではないかと気がいたしますので、その辺を中心に議論ができればいいと思います。以上です。

【福田会長】 どうもありがとうございました。観光と物流ということでご提案をしていただきました。その中でも本当にはっとするようなご提案、ご意見も出たように思います。ただ、経済界といたしましては、さらにこの……。

【大田会頭】 時間がないので私、やめたのですが、次の議題として提案をしたいのは、地域における環境、温暖化対策です。

【福田会長】 今、そちらに振ろうと思っていました。

【大田会頭】 これも非常に重要な課題だと思います。昨日、G8の環境大臣会議が終わりましたが、私は日商の環境委員長として経済界の意見を申し上げてきたのですが、やはり地域で行政とか企業が一緒になって、できれば中国地方の先進モデルというものを作り上げられるといいのではないかと考えておりました、ぜひ次から、環境問題をテーマにしていただきたいと思います。

それからもう1つ、外国人の労働力、特に留学生を使ったインターンシップのようなもの、今広島商工会議所でも検討させているのですが、こういうものが今から重要な課題ではないかと思っておりますので、こういう会合で議題として取り上げていただけたらと思ひまして、提案をさせていただきます。

【福田会長】 2時が迫っているところで、大田さんもずいぶん気にやまれました、実は大田さんが、地域における地球温暖化対策、あるいは外国人労働力、留学生の問題というご提案をお持ちだということは十分わかっておりました、実はこういう会議で議論していかなければいけない材料がいかに多いかということ改めて感じた次第でございます。

先ほど、大田さんは次回とおっしゃいましたが、次回以降ということにさせていただいて、この場でのということですね。

【大田会頭】 議題として要望いたします。

【福田会長】 本当にありがとうございました。特に一番共通した材料といたしますと、先ほどの観光、特に広域観光を含めた大きい意味での観光、それから物流ということを中心に話をさせていただきました。どちらがより大きなテーマ、あるいはこの秋に行われます第1回の会議にふさわしいテーマかという点については悩ましいところでございますが、東の横綱、西の横綱という

ことでいきますと、私の判断としましては、観光にちょっと分があるのかなと理解しております。

本来でございますと、本日の皆様方からのご意見をきちんと総括するところでございますが、時間の関係もございますので、ポイントのみ、概括させていただきましますと、官民一体で取り組むテーマといたしましては、まず広域観光の推進というのが経済界からも強く提起され、知事の方々からも、先ほどのお話のようにご賛同の意見を賜りました。

また同時に、観光の持つ幅広い経済効果の取り込み、あるいは地域間競争への対応、インバウンドの推進等に加えまして、PR、イメージ戦略、あるいは先ほどいろいろな素晴らしいアイデアが出ましたが、いろいろご指摘を賜りました。

そういうことで、国際物流機能の強化とか、先ほど大田さんからご提案がありました地域の地球温暖化対策、あるいは外国人労働力の活用等のテーマにつきましましては、その次のテーマとさせていただきます。

第1回中国地域発展推進会議のテーマとしては、皆様のご意見の多かった広域観光の推進にさせていただきますということで整理したいと思っておりますが、いかがでございますでしょうか。よろしゅうございましょうか。ありがとうございます。

また、岡崎さんからご要望のございました道路整備の要望につきましましては、5県、官民合同での要望活動の件につきましても検討してまいりたいと思っております。

それから、平井知事様、二井知事様からも触れられましたが、知事会、あるいは経済界として共通に取り上げられるようなアピールといえますか、そういうものも前向きに検討したらいかがかというご意見もございましたので、そういうことも検討の俎上に上げていきたいと思っております。

それでは、秋の第1回中国地域発展推進会議までの間に、事務局におきましては具体的な議論ができるように整理した上で、5県及び各経済団体との調整を行っていただくようお願いいたします。

皆様方のご協力によりまして、短時間ながら、今後の中国地域の発展に向けての有意義な議論ができましたことと存じます。感謝申し上げます。

蛇足でございますが、皆様、前を見ていただきますと、官、民のテーブルの広さと間隔の広さが気になるところでございますが、次回の会からは、会を重ねるごとに、双方50センチずつこの間隔を縮めていただきまして、気持ちのほうはそれ以上でございましょうけれども、より一層親密な議論ができていくことを期待して、この会を終わらせていただきたいと思います。

お約束の時間を4分ほど過ぎましたが、実は中知会の会長さんの温かいご配慮で、ちょっとぐらいの遅れならいいよというメモをいただきましたので、どうもありがとうございました。

本日は、進行役へのご協力ありがとうございました。

以上